

〔 巡 検 会 報 告 〕

「 島 原 半 島 」

尚 綱 高 田 代 正 之

熊本地学会恒例の夏期巡検会は、8月1・2日、1泊2日で、島原半島に分布する第三紀、第四紀の堆積岩、化石、火山活動についての観察を中心に行なわれた。参加人員は、7名の女性を交えて計48名、指導者は熊大田村先生、世話係は第一高校の徳山先生であった。

第1日（8月1日）

午前8時15分花畑町集合、8時半に貸切バスで出発、三角港迄の車中で、田村先生より巡検コースの予定（図1）や島原半島の地質の概要（柱状図参照）を聞く、三角よりフェリーボートで島原へ渡り、島原より雲仙火山群を右手に見て半島東岸を進む。

天草諸島・三角岳・湯島が左手洋上にかすかに浮んでいる。

有馬の谷川の殿粉工場近くの河原で、口之津層群北有馬層の海生貝化石を採集、クラミスヤリマ等が多かった。天草四郎で有名な、原城跡で昼食をとる。原城下の海岸の露頭をみる。ここでは、図2の様に大屋層の上に阿蘇熔結凝灰岩が重り、熔結凝灰岩の浸食面上に大江層の貝化石（主にカキ）層が重なっている。12時40分頃原城を後に口之津に向う、途中宮崎鼻で、玄武岩を採集、かなり大きなカンラン石の斑晶がある。又玄武岩の産状には、玄武岩特有の繩状熔岩の様子がみとめられる。口之津港で、暫く休み、その後、加津佐に向う。加津佐は最近発見された哺乳動物の化石産地である。（鹿大の大塚裕之先生によって調べられている）。新種のシカヤステゴトン象等多数の哺乳類化石が知られている。この産地は平均海面下の海岸にあり、満潮時には海底になる。この化石帯の上位には植物化石帯（セコイヤ・ブナ等）海生貝化石層（アナダラの密集が顕著であった）が重

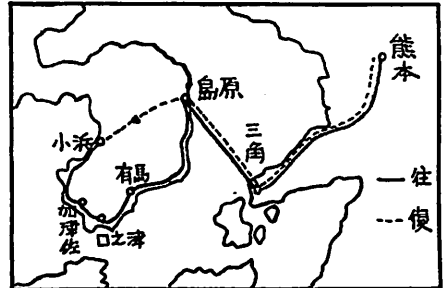


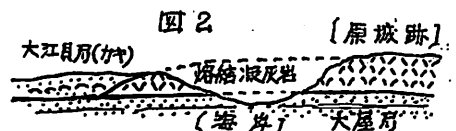
図1 巡 検 コー ス

なり、その上に凝灰角礫岩が重なっている。その凝灰角礫岩が、波食を受け、前首相、岸さんの顔に良く似た奇岩を作って海岸につつまっていた。岸信介岩というそうである。吾々が行った時は、丁度満潮近くであったので、残念乍ら、哺乳動物化石の産地の露出部分が少く化石は採集する事は出来なかった。しかし貝化石は豊富であった。4時過ぎ宿泊地小浜温泉の国民宿舎に到着、早速宿舎の温泉に飛び込み1日の汗を流す。この温泉は食塩泉で、神経痛、リュウマチに効果があるそうで飲用すれば、胃腸に良いとの事、どこの温泉にも書いてあるような効能書である。

第2日（8月2日）

小浜を後に、雲仙地獄に向う、地獄を一巡する。亜硫酸ガスの臭気が鼻をつく。

安山岩熔岩に付着した黄色の硫黄の結晶が美しい。地獄めぐりを終えて、仁田峠に向う仁田峠ロープウェイで妙見岳の頂上近くに登る。これから先は希望者のみで徒歩で普賢岳近くの鳩穴を見に行く事になっていた。先ず妙見の頂上おらおねづたいに普賢岳に向かって進む。普賢岳の登り道で、四カ所程の風穴



がある。この穴からは息を白くされる位の冷たい風が吹き出していて冷蔵庫の中に入った様な感じである。どれ位の深さあるか判らない。これはおそらく熔岩が冷却して固まる時に出来る節理の一種であろうと考えられる。

普賢岳の中腹にある鳩穴迄、妙見頂上より約1時間半、鳩穴は、熔岩トンネルの一種だそうである。熔岩トンネルとは、熔岩の表面だけが先に固まってしまい、その為内側のまだ固まっていない熔岩が流れ去ってしまい、その後トンネル状の空洞が出来たものである。富士山等には人穴、風穴等といって有名なものである。穴の中には、真夏だというのに厚い氷の塊が岩肌にくっついている。早速ハンマーをふるって氷を割り、頭にのせたりガリガリかじったり、十分涼を楽しんだ後帰路につく。普賢中腹よりあざみ谷をへて、仁田峠につく。全行程約2時間半、真夏の強行軍で、おまけに昼食前ときているので全員いささか、ばて気味である。早速雲仙に下って昼食をとる。その後、島原へ下る。島原港近くの石切場で安山岩の標本を採集する。この安山岩は、角閃石安山岩で、1792年に有明海一帯に津波を起して大災害をもたらしたという眉山の崩壊時に島原港近く迄移動した岩塊である。眉山崩壊の原因は火山活動であるが、断層活動によるものかは、当時の資料がほとんどないので判らないとの事である。

3時10分島原港発三角港行のフェリーで帰途につく、三角から熊本迄のバスの中では巡検会ではめずらしく歌を歌って楽しんだ。

最後に終始親切に御指導いただいた田村先生ならびに本巡検会のお世話をして頂いた徳山先生に紙面を借りて御礼申しあげます。

島原半島模式柱米因			
時代	地層名	岩相	特徴
沖積世	沖積層		黄土 火山灰 砂土砂
	島原海溝層		砕破層(有明海土層直下)有明海中央に向か、て厚くなる(大工層に類似)
洪積世	大江層		阿ノ新期結核凝灰岩の谷に埋り込んでいる砂泥層、赤土質化石(赤土)を産する
	阿ノ新期結核凝灰岩		八ヶ岳土層相部10~35mの平坦面を占す
沖積世	中位級層		凝灰角礫岩砂角礫土(10~35mの厚層)面を占す(くさり礫)上面は赤色土
	竜石層		上部は凝灰角礫岩、火山砂泥層、下部は凝灰角礫土、砂礫層、赤土質化石
鮮新世	北有馬層		南有馬層は両輝石安山岩、角閃石凝灰角礫岩、凝灰砂泥層を主とし、上部はアルカリ火成岩を伴う。砂層、シルト層の北有馬層に砂化する。植物化石、赤土質化石を産する。
	加津佐層		シルト、砂、泥岩、凝灰角礫岩を主とし、粗粒である。植物化石(マゴロイ、フナ、40ウエイマツ)動物化石(シカス、テゴト)を産する
	大屋層		砕核シルト泥岩、凝灰角礫岩を主とし、植物化石(フナ、カゴフ、等)動物化石(ステゴト)を産する。角閃石安山岩の岩脈、熔岩の活動あり、下部部にソライアイトから人成武岩を伴う
古生紀	志岐山層		凝灰角礫土、砂礫、凝灰土を主とし、泥岩は堅固な層で、天草の板礫川層に對比される。